

## ちよなら三角

池田 隆

散歩に出ると、近くの小学校の帰宅時間であった。四年生ぐらいの男子が街角へ来る毎に「バイバイ、ジャーナー」と手を振ってグループから一人ずつ別れていく。

彼らを見ているうちに「さよなら三角、また来て四角、四角は豆腐、豆腐は白い、・・・」と口元で呟いていた。そう言えば戦後間もない頃、悪ガキの私はこの童歌を大声で歌いながら友達と下校したものだ。

歌詞は「白いはウサギ、・・・」と続くが、その辺りから皆でふざけ合っては語句を当意即妙に色々と替えていた。たとえば「白いはフンドシ、禪は相撲取り、相撲取りは強い、一番強いはマッカーサー、マッカーサーは偉か、エラカは勉強、勉強は試験、試験は赤点、赤いは共産党、共産党は代々木、代々木は東京、東京はブギウギ」と。後は流行歌ブギウギの踊りと合唱（雑唱？）となる。

親や兄達の話聞きかじり、覚えただけの語句や歌で得意顔になっていた気がする。しかし今になると当時の政治や社会の世相をよく反映していたことに驚く。

マッカーサーの命令でゼネストが急遽中止となり、暴力革命を是とした日本共産党が非合法化された時期である。

「代々木」という地名を知ったのもこの戯れ歌からだ。中学時代には火災瓶事件などの報道のせいだろう、代々木駅で乗換える際に一種の緊張感を覚えたものだ。

60年安保闘争時になると共産党は武装闘争路線を破棄しており、全学連の中では代々木派より主流派の方が急進的だった。

企業勤務の数十年間は代々木と言えば明治神宮やオリンピック・プールまで。だが退職後に入会した企業OBペンクラブの会合がいつも代々木地区で催される。足繁く通ううちに、明治通りから南新宿駅界隈までの一帯も親しみを感じる地域となった。

共産党もまたしかりかも。自由な身になると彼らの主張が他の政党より社会的に筋が通り一貫しているように覚える。トランプの固定支持層である福音派を連想させる偏屈さ、不寛容さ、独善はやはり不気味だが。